

---

# ラストボール

曇り空

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ラストボール

### 【Zコード】

Z5085A

### 【作者名】

曇り空

### 【あらすじ】

僕は小学六年生、明日の紅白戦はレギュラーを決める大事な試合なんだ。でも僕は迷ってる。

『勝負は勝負なんだ、手加減するなよ』なんて大輝は言つんだ。  
僕にだつて分からぬ訳じやない。僕も自分なりに今日まで練習  
してきた。毎日投げ込みは欠かさずやつた。

そもそも、僕がこんなに悩んでるのは監督のせいだ。

「有也と聰は二人ともいいピッチャーだからな、明日の紅白戦で  
どちらをレギュラーにするか決める」

練習が終わつた後、監督は僕達一人を呼び出して言つた。僕も  
聰も「クリと頷いて承知した。

その時は絶対負けるもんかつて、おもつてたんだけどね。僕達、  
つまり僕と大輝、それから聰は小学校に入学した時からこのチーム  
に入つていた。

そして、僕達は今年で六年、つまり今年は僕達の年というわけだ。

僕達は昔からチームにいたこともあって、何度も上級生の試合に  
出してもらつたこともあつた。

先輩のピッチャーが疲れでダウンすれば、僕か聰の出番だ。大抵  
どちらが選ばれるかは半々だつたから、僕は今まで聰をライバルな  
んて思つたことはなかつた。

でも今回は違う、どちらか一人なんだ。

さつきも言つたけど、僕だつて最初は負けるもんかつておもつて  
たんだ、でもね、段々、聰もレギュラーになるために六年間頑張つ  
てきたんだなあ、なんて考えちゃつて自分がどうするのがいいのか  
分からなくなつてきた。

それで大輝に相談してみたりもした、なんて言われたかは最初に  
言つたよね。

それで、今、紅白戦、1対0 僕達が勝つてる。

でも、僕は最後の最後でヘマをやつた。

立て続けに打たれた。五番、六番、七番、が連続でヒット、ツー  
アウト満塁、一発逆転のピンチ。

でもね、次のバッター、つまり八番の高村は下手くそなの、まず  
バットの使い方が分かってないくらい。

ごめん、ちょっと大袈裟。

でも本当にそんな感じ、だから打ち取つて当たり前の相手、でも  
僕はちょっと緊張してボールを連発した。ノーストライク スリー  
ボール キヤツチャヤーの大輝が慌てて駆け寄ってきて『いつも通  
りに行こうぜ』って言つてくれた。

それで、緊張がぼぐれて、連續ストライク、ツーストライク ス  
リーボール、後一球、ストライクゾーンに入れれば大丈夫だ。  
でもこんな時、ネクストバッターズサークルで素振りしている聰  
の顔が目に入る。

僕の頭の中を『迷い』が駆け巡つた。そして投げた。  
大輝のキヤツチャーミットがバシツつと鳴つた。

(後書き)

今回は心の中の葛藤を描こうと思ひ極力、背景を描かないことにしました。ご感想お待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5085a/>

---

ラストボール

2010年10月19日15時00分発行